

■日本の外国人コミュニティ■

名古屋・栄東の「リトル・マニラ」

高畑 幸

[たかはた さち]

■大阪市立大学COE研究員

JR名古屋駅から地下鉄で2駅の「栄（さかえ）」に行ってみよう。西側は松坂屋や三越がある屋間の繁華街、大通りを隔てた東側が夜の繁華街・栄東（さかえひがし）地区だ。「女子大小路」という名前でも知られている。ここが、いまでは外国人が多く就労、居住する街となった。

栄東地区には、ざっと数えて飲食店などが入居するレジヤビルが100以上あり、外国人女性が出演するショーパブが数多く入居している。最近は多国籍化した、多くがフィリピン人だ。栄東地区を含む中区に住むフィリピン人は、登録人口だけでも1446人（2003年末現在）にのぼる。

この街は「リトル・マニラ」と形容されることがある。あちこちにローマ字や英語・フィリピン語の貼り紙が見られるからだ。「ゴミは決められた日に」「ビルの出入り口でブラブラするな」「アパート入居者募集」などなど。そして、日本人経営の商店がフィリピン人好みの品そろえをするようになった。店内の品は何でも99円というコンビニでは、店頭には常にマンゴーが箱積み。そして、フィリピン人御用達のお土産ナンバーワンが、日清カップヌードルのシーフード味だ。栄東地区の酒屋、食品店、コンビニまでも、シーフード味を箱単位（1箱20個入り）で売る。あ



フィリピン人には欠かせないふるさとの味、シニガンスープの素（タマリンドスープはそのひとつ）。栄では1袋100円程度で売られている撮影：柴永文夫

るコンビニでは、夜間労働者が帰宅する午前2時ごろには店内がフィリピン人だらけ。一晩で計20箱のシーフード味が売れることもあるという。

街の表象だけでなく、栄東地区に住むフィリピン人の組織活動もおもしろい。この地区に事務所をおく「フィリピン・マイグランツ・センター」では、各種自助活動のほか、フィリピン人同士のもめごとを仲裁している。フィリピンでは、町内会程度の規模で「バラングイ」と呼ばれる地域組織が作られ、それが行政・司法・立法の3機能を持つ。その司法（紛争仲裁）機能を日本で応用しているのだろうか。私の目にはそのように映る。日本のサカエという街に暮らすフィリピン人が、権限はなくとも彼ら同士で自主的に紛争仲裁を行なう場所。なかなか日本人の目にとまらない部分だが、外国人集住地区ならではの「作法」である。

PAKI-USAP LAMANG PO

**MAHIGPIT NA IPINAGBABAWAL
ANG UMUPO O UMISTAMBAY SA
BIRU NA ITO DAHILAN SA NAKAKAISTORBO
SA MGA COSTUMERS . . .
ANG HINDI MAKIKIPAG "COOPERATE"
AY MAY "PENALTY"**

たかはた さち ●大阪外国語大学英語学科、同修士課程フィリピン研究科、大阪市立大学文学研究科後期博士課程（社会学専攻）修了。1994～2001年、在日フィリピン人向け月刊紙『ピノイ』編集長。現在、大阪外国語大学などで講師を務める

「ビルの出入り口でブラブラするな」というフィリピン語の注意書き 撮影：筆者